

令和7年度

**貞光小学校
「学力向上実行プラン」**

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「聴く」ことを大事にし、多様な考え方の中から自分の考えを深める
- 苦手な課題にも前向きに取り組む主体的な学びの姿勢を育てる

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（1）～（3）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職と教職員が連携し、授業参観や、児童の学習成果の共有等を通して、取り組みの進捗や課題を的確に把握する体制を整える。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算の基礎的な知識・技能が定着している。 ○タブレットや辞書を活用し、自ら言葉の意味を調べる姿勢が見られる。 ○話を聴く態度が少しずつ身についてきており、合図で気づける児童も増えてきた。 ●聴く力に個人差があり、集中が続かない児童もいる。 ●習得した語彙を活用して自分の考えを表現する力に課題がある。 ●苦手な課題に対して自主的に取り組む姿勢がまだ十分ではない。	●習得した語彙を活用し、自分の考えを文章や発言で的確に表現できる。 ●相手の話を最後まで聴き、内容を理解しようとする姿勢を持つ。 ●苦手な課題にも前向きに取り組み、自ら学ぼうとする意欲を持つ。	●朝学習や授業冒頭に語彙力を高める活動(例:言葉集め、意味調べクイズ)を取り入れる。 ●話し合い活動やペア・グループワークを通して、聴く力・伝える力を育成する。 ●総合教育センターの教材やデジタル教材を活用し、個別最適な学びを支援する。 ●苦手な課題に取り組む児童を積極的に認め、成功体験を積ませる声かけや支援を行う。 ●学習の振り返りを定期的に行い、自分の成長を実感できる機会を設ける。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりする姿勢が定着している。 ○ペア学習やグループ学習に積極的に参加しようとする意欲が見られる。 ○ホワイトボードなどのツールを使った話し合い活動に慣れてきている。 ●課題に対して必要な情報を収集・整理し、自分の考えを深める力が十分ではない。 ●複数の意見を比較し、新たな視点や考えを創造する力が育ちっていない。 ●言語活動を通じた「深い学び」につながる発問や表現の場面が不足している。	●課題に対して必要な情報を主体的に収集・整理し、自分の考えを論理的に構築できる。 ●他者の意見を取り入れながら、自分の考えを深め、新たな視点を生み出すことができる。 ●言語活動を通して、自分の考えを的確に表現し、学びを広げることができる。	●ペア・グループ学習の前に「個人思考タイム」を設け、思考の深まりを促す。 ●ホワイトボードやICTツールを活用し、可視化された意見をもとに話し合いを深める。 ●「なぜそう思ったのか」「他にどんな考えがあるか」などの発問を意識的に取り入れ、思考を広げる。 ●学年・学級で話し合い活動の進め方やホワイトボードの使い方を統一し、児童が安心して活用できる環境を整える。 ●授業後に振り返りの時間を設け、学びのプロセスを言語化する機会をつくる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○宿題や家庭学習に主体的に取り組む児童が増えてきている。 ○NOメディアーや家庭読書の取り組みを通して、読書習慣が定着しつつある。 ○優れた自主学習ノートの掲示が、他の児童の意欲向上につながっている。 ●自主学習の内容に個人差があり、学習の質にもばらつきがある。 ●自分の課題を明確にし、それに応じた学習内容を計画・実行する力が十分ではない。 ●振り返りを通じて学んだことを更に深める習慣がまだ定着していない。	●自らの課題を把握し、それに応じた自主学習を計画・実行できる。 ●学習のめあてを意識し、振り返りを通じて学びを深めることができる。 ●家庭学習を通して、学びの楽しさや達成感を実感できる。	●自主学習ノートに「めあて」と「ふりかえり」の欄を設け、学習の目的意識と振り返りの習慣を育てる。 ●優れた自主学習の事例を定期的に紹介し、学習の工夫や広がりを共有する。 ●NOメディアーを継続し、家庭と連携して読書や学習に集中できる環境を整える。 ●自主学習のテーマ例やヒントカードを用意し、学習内容の充実を支援する。 ●学期ごとに「自主学習ふりかえリシート」を活用し、自分の成長を可視化する機会を設ける。			